令和２年度（2020 年度）第１回政策会議

日　時：令和２年（２０２０年）１１月２７日（金）１３：３０～１３：４５
会　場：市長会議室
参集者：工藤市長，谷口副市長，平井副市長，田畑企業局長，辻教育長，
　　湯浅企画部長，小山内総務部長，小林財務部長，

付議事項

第３次函館市食育推進計画（素案）について

対 応 者

大泉保健福祉部長，兵庫保健所次長，三上健康増進課長

◆議題の趣旨◆

第３次函館市食育推進計画（素案）について協議しました。

◆協議の結果◆

原案のとおり，本件の内容は了承されました。

◆主な発言◆

■大泉保健福祉部長

食育推進計画としては３回目の策定となる第３次函館市食育推進計画（素案）についてご協議いただきたい。

■三上健康増進課長

前計画までは，子どもを中心とした食育を推進するということで計画を策定してきたが，第３次函館市食育推進計画では，対象を子どもから大人までの幅広い世代に変更し，関係者の連携を図りながら，生涯に通じた食育の推進をすることとした。

計画の位置づけとしては，「函館市基本構想」や「健康はこだて 21（第２次）」等の関連計画と整合性を図り，策定する。

計画期間としては，令和３年度から令和 12 年度までの 10 年間とし，適宜，中間評価を行ったうえ，必要に応じて計画の見直しを行う。

函館市の現状として，男女ともに全国，北海道と比較して健康寿命が短い状況であり，男性であれば 77.27 歳，女性であれば 82.58 歳となっている。また，子どもの状況についても，本市の小・中学生が朝食を毎日食べる割合および適正体重の割合がともに，全国，全道と比較して下回っている状況にある。

なお，成人の状況であるが，本市の男性の 20 歳代で３人に１人，30 歳代で４人に１人が朝食を欠食している状況で，肥満については，男性の 20 歳代で３人に１人，30 歳代で４人に１人，40 歳から 64 歳では約４割が肥満という状況である。

本計画の基本理念であるが，前計画から継承することとし，「食育基本法第２条」を踏まえ，「函館市民一人ひとりが食を通じて心豊かで健やかな暮らしを実現することができるように食育を推進します」とする。

続いて，食育推進のための基本目標であるが，「生涯にわたって健康なからだをつくる」，「豊かな心を育む」，「函館の豊かな食資源や食文化を通して食の大切さを知る」という３つの基本目標を前計画から継承し，幅広い世代に食育を推進していくこととしている。

食育推進のための基本方針であるが，子ども中心から幅広い世代に対する食育を推進するため，国の重点課題を踏まえ，新たに３つの基本方針を定めた。

１つ目に，「健康寿命の延伸につながる食育の推進」であるが，こちらは生活習慣病の発症・重症化の予防につながる事業を展開していく。

次に，「多様な暮らしに配慮した若い世代への食育の推進」であるが，こちらでは生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むため，子どもや若い世代に対して健康や栄養に関する興味・関心や知識を高めるための事業を展開する。

最後に，「食文化の継承や食の循環を意識した食育の推進」であるが，こちらでは日本人の伝統的な食文化の継承や地産地消の推進，食品ロスの削減につながる事業を展開する。

なお，令和３年度から新たに実施する主な事業として，基本方針の１つ目，「健康寿命の延伸につながる食育の推進」では，ホームページでの情報発信と簡単食事チェックの実施や学びの場（はこだて市民健幸大学）での周知啓発，職場における健康支援，ヘルスサポートレストラン推進事業（飲食店でのヘルシーメニューの提供等），口腔保健の講話や歯科相談の実施などを予定しており，基本方針の２つ目，「多様な暮らしに配慮した若い世代への食育の推進」および３つ目，「食文化の継承や食の循環を意識した食育の推進」でも，ホームページでの情報発信を予定している。

■小林財務部長

国や道の計画，第２次の市の計画は５年間の計画期間としているところだが，本計画の計画期間はなぜ 10 年なのか。

■三上健康増進課長

食育という考え方そのものは，基本的に普遍的なものであると考えていること

から，計画期間を 10 年とした。ただし，その時々で実施すべき事業は異なっていくと考えられることから，中間評価を実施したうえで，見直しを図っていくこととしている。

■小林財務部長
計画は 10 年間継続し，登載されている事業を適宜見直していくということか。

■三上健康増進課長
毎年，外部有識者会議にて各委員から意見等をいただくこととしており，大幅な変更については中間年の５年で，個別事業については適宜見直すこととしている。

■小林財務部長
指標に設定されている目標値は，国などの計画等から引用するなどの根拠がある数値なのか。また，指標を「小学生」，「中学生」に分けている項目があるが，その必要性はどのようなことか。

■三上健康増進課長
目標値は，基本的に全国平均に届かせることを目標としており，達成目標となっている。また，指標を分けていることに関して，これまでの計画では目標値を100%としてきたものもあるが，現実的ではないということで，それぞれの世代（小学生，中学生）で達成目標を設定したものである。

■小林財務部長
めざす目標値というよりは，この数値をクリアしていきたいという達成目標という理解でよいか。

■三上健康増進課長
お見込みのとおり，少なくともこれを達成していきたいものである。

■工藤市長
食育の推進という部分では，方向性としてこれまでから大きく変わることもないため，引き続き推進してほしい。

■湯浅企画部長
他に意見等ないようなので，原案のとおり了承とさせていただく。